

下伊勢畑要害城

「山城」といえば藪がつきものですが、今回は藪を気にせずに見に行くことができる山城をご紹介します。

御前山地域にある青少年旅行村が城跡だということをご存じでしょうか。

青少年旅行村は下伊勢畑地区の小字要害にあり、標高120m～180mの山にケビンやコテージが建っています。展望台のある標高183mの山は通称「富士山」と呼ばれ、地元の人々に親しまれています。

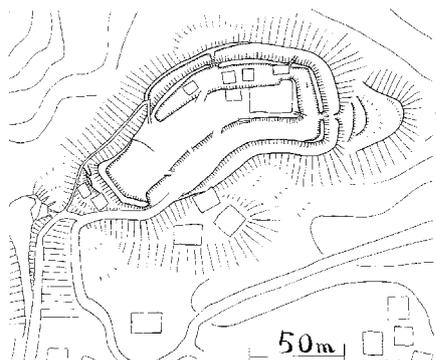
下伊勢畑要害城は富士山の北東の山麓、標高120mの山上にあります。キャンプ場造成時に若干改変された部分もあるようですが、幸いにも大きな改変はなく、平場をうまく利用して宿泊施設が建てられています。

旅行村の管理棟を過ぎて道なりに進むと、駐車場にたどり着きます。ここからも大規模な遺構が確認できます。

城跡はほぼ東西に100m、南北に50～60m程の広さで、駐車場のある場所は城跡の南側に当たります。駐車場の北側に3mほど高い主郭があり、この北・東・南にかけて、一段低い帯曲輪状の遺構が主郭の周りを囲んでいます。



▲下伊勢畑要害城跡



▲下伊勢畑要害城縄張り

(高橋宏和氏作図)

広い主郭のみを中心に配置することから、戦時に使用する駐屯地、砦といった印象を受けます。

下伊勢畑要害城の城主については不明ですが、康安2年(1362)の佐竹義篤譲状では小場義躬分として「那珂西 伊勢畑郷」と記され、この地が小場氏の所領となったことがわかります。

遺構から検討すれば、防御は北側に厚く作られていることがわかります。つまり、北方の敵を想定していたと考えられます。



▲主郭北側の帯曲輪状遺構



▲下伊勢畑要害城から見た長倉城

北側の敵、とは何を指すのでしょうか。

前に掲げた佐竹義篤譲状からおよそ40年後、佐竹氏は同族でのちに「山入氏」と呼ばれるようになる一族と100年にわたる内乱状態に入ります。本家と対立する山入方の拠点の一つとなったのが、下伊勢畑要害城の北にある長倉城でした。のちに「長倉追討記」という史書にも記される激戦があり、長倉城を攻めるための砦が周辺各所に置かれたことがわかってきました。

下伊勢畑要害城の北側からは、那珂川を挟んで長倉城が遠望できます。

城の使われていた時期などは特定できていませんが、山入の乱の攻防が、ここでも行われていたのかもしれませんが。

※青少年旅行村を訪れる際は、管理人室に声をかけてください。

歴史民俗資料館大宮館 ☎52-1450